

関門汽船

東側の本州と西側の九州を隔てる関門海峡は、狭いながらも波が激しく、何世紀もの間、島々間の交易、往来、通信にとって厄介な障害であった。明治時代（1868 年～1912 年）に下関（山口県）と門司（福岡県）の都市が繁栄し、発展し始めると、両都市間を確実に横断する方法が求められるようになったが、橋や海底トンネルは技術的にまだ不可能だった。1889 年 9 月、地元の実業家で後に衆議院議員になった石田平吉（1853～1929）が、海峡を渡る最初のフェリー航路を開設した。1896 年、土井重吉（1853-1936）によって関門汽船株式会社が設立され、海峡横断移送の新時代が幕を開けた。

フェリー事業

関門汽船は創業以来一世紀以上にも渡って現在でも、下関の唐戸栈橋と門司のマリンゲートを結ぶ関門連絡船や歴史的な島である巖流島（船島）への連絡船などといった定期旅客フェリーを運航している。

唐戸と門司港を結ぶフェリーの所要時間は約 5 分ほどである。フェリーは両港から出ており、午前 6 時(土日祝は午前 7 時)から午後九時までの間に 20 分間隔で運行している。下関と巖流島を結ぶフェリーは、午前 9 時から午後 4 時までの間の 1 時間毎に 2 往復している。門司港と巖流島を結ぶフェリーの運航時間はほぼ同じだが、週末のみ運航している。

これらのフェリーの船長は、航路を横切る巨大な船を避けながら、関門海峡の強い潮流を巧みに航行する。天候が許せば、フェリーの屋外デッキに乗って、海峡と兩岸の港町を堪能するのもいいだろう。